



金井忠男会長

平成24年度理事会・総会

埼玉県摂食・嚥下研究会理事會及び総会は平成24年6月17日(日)午前11時より彩の国すこやかプラザ2階研修室で行われた。

総会では議長に奥村理事が、副議長に丸山理事が選出され、金井会長の挨拶の後、役員への選任、平成23年度の事業報告及び決算、平成24年度の事業計画及び予算の計5議案が審

議され、すべて提示した原案どおり可決された。役員選出の件では薬剤師会から内山宣世会長が副会長に、栄養士会から平野孝則会長、理学療法士会から望月久副会長、作業療法士会から大橋幸子総務部長が理事に承認された。多くの職種の方が参加されることは摂食・嚥下障害でお困りの方のために役立つと思われる。(詳細4・5面)

総会後、第15回講演会が開催された。この日のメインテーマとしては「摂食・嚥下への取組み」関連する職種の役割と展望を中心に行われ、203名の参加者があった。

埼玉県摂食・嚥下研究会だより

「高齢化時代のセーフティ・ライフを目指して」

vol.20
発行日 平成24年9月10日
発行者 埼玉県摂食・嚥下研究会
事務局 埼玉県浦和区針ヶ谷4-2-65
彩の国すこやかプラザ5F
(社)埼玉県歯科医師会内
TEL 048-829-2323

「摂食・嚥下障害における職種間の連携——STの立場から」

新潟リハビリテーション大学大学院 倉智雅子教授

最初に新潟リハビリテーション大学大学院の倉智雅子教授から「摂食・嚥下障害における職種間の連携——STの立場から」という演題で講演された。

最初に様々な職場のSTの声を紹介され、より良い連携のためにできる工夫、対策について次いで急性医療機関での成功例(図1)の特徴を解説。また葛藤された例(図2)を最後に回復期医療機関での成功例(図3)についても提示があった。

- 1) 急性期医療機関の場合 (図1)
- 【成功例の特徴】
- ・嚥下チームやNSTの存在
 - ・リーダーとなる常勤医師の存在
 - ・耳鼻咽喉科、神経内科、リハビリ科、歯科口腔外科医の協力が得やすい
 - ・歯科衛生士が常勤あるいは非常勤で関わられる
 - ・嚥下認定看護師の存在、あるいは看護師の高い意識
 - ・リハ専門職間(PT・OT・ST)の関わりが日頃から親密
 - ・栄養部が嚥下食の提供や改良に意欲的

【葛藤例の事情】 (図2)

- ・嚥下チームを立ち上げたいと思っても、他職種の協力が得られない(「温度差」)
- 患者の在院期間が短く、じゅうぶんに関われない
- 書類書きだけが増え、ますます患者に関われない
- 関係者(特に医師)の異動が多く、先が見えない
- 忙しすぎて新しいことを抱え込みたくない
- 周囲が摂食・嚥下リハの価値を理解していない
- 周囲が摂食・嚥下障害に無関心

に対し、①直接話し合う機会を増やす
②個人的に仲良くなつて信頼関係を築く
③摂食・嚥下の面白さを伝えること



し送りは写真や図を添えるとうわりやすい。勉強会なども大切だと思われる。

小さな地域内での連携では、回復期・維持期で必要な職種がそろっているわけではないので職種間の枠を超え、患者様本位の考えを持つことが大切。例えば歯科衛生士が嚥下訓練を行うことへの理解など、互いの専門性を認めつつ環境に応じた柔軟な対応が求められる。

広域連携の例として、埼玉県では『にいがた摂食・嚥下障害サポート研究会』が2つの事業を展開している。一つは「食の支援ス

摂食機能療法185点)を伝えることも重要。また関わってほしい職種

も大切だと話された。次に同一法人/法人グループ内の連携として看護師と介護スタッフへの申

開している。一つは「食の支援ス

(2面へ続く)

食、介護用食器などを展示し、試食や試用ができる。もう一つはセミナー・講演会を行っている。府県を超えた広域連携の1例としては『京滋摂食・嚥下を考える会』がある。より良き連携とは、患者様本位のメンバ―が忌憚のない意見をだしあえる関係、膝を突き合わせての話し合い、補い合う姿勢である。

(図3) 2) 回復期医療機関の場合

- 【成功例の特徴】
- ・ひとりの患者に関する時間がどの職種でも長くない、急性期に比べて医師への依存度が低くなるため、職種間の連携も比較的しやすい
 - ・主治医以外の医師の協力をそれほど必要としないため、連携を必要とする専門職の人数が減る
 - ・連携の重点がリハ専門職(PT・OT・ST)、リハ専門職と看護師・栄養士間に移行し、連携しやすい

次に米国のFree Water Protocol (自由飲水/水飲み放題プロトコル)について話された。これは水分の誤嚥がVFやVEで認められ、食事中の水分はとろみに限られている患者も食間の水は飲んでよいという考え。ただし、①食後30分以内の飲水は禁止②絶食の指示が出ている患者は適応外③徹底した口腔ケア(口腔内のバク

テリアを肺に入れないため)④姿勢調整の積極的な導入⑤水と一緒に服用は禁止。実施施設では18か月の調査で肺炎になった患者は234人中2人だった。このプロ

トコル(治療方針)をサポートする研究結果として、経管水分補給では喉の渇きは収まらない、肺炎はトロミなし水分よりもトロミ水分を誤嚥した患者に多かった等がある。

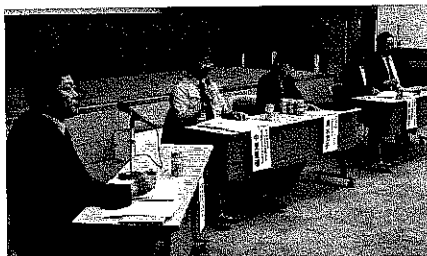
現在の日本の摂食・嚥下リハビリには水を「敵視」する傾向があり、必要以上にトロミつき水分に頼っていないか。患者様のQOL向上への連携を推進するにあたり、「水は危険」という現在の「職種間共通の誤解(?)」を再考することは大切である。

シンポジウム「摂食・嚥下障害における職種間の連携」

倉智雅子教授のご講演に続き、埼玉県摂食・嚥下研究会理事 大生病院耳鼻咽喉科科長 大前由紀夫先生(以降〇先生と称す)の司会の下「摂食・嚥下障害における

職種間の連携」というテーマで、シンポジウムが行われた。先ず、各職種を代表し埼玉県摂食・嚥下研究会理事 中里歯科医院院長 中里義博先生(歯科医師)(以降

N先生と称す)埼玉県リハビリテーションセンター言語聴覚科科長清水充子先生(言語聴覚士)(以降M先生と称す)埼玉県立がんセンター看護科 橋本裕子先生(摂食・嚥下障害看護認定看護師)(以降H先生と称す)国立障害者リハビリテーションセンター病院耳鼻咽喉科 鈴木康司先生(医師)(以降S先生と称す)の4人の先生より、各々の職種立場における職種間の連携に対する主張をお話しいただいた。



連携が必要だと思われる。リハにあたっては常に不安が見え隠れしているが、その不安の原因として多職種との連携が取れているか否かがポイントとなっているようだ。カンファレンスの際に十分な協議がなされることが必要だと思われる。さらに今後は、同じ職場内における多職種連携にとどまらず、異なる機関との連携により症例検討等を行うことも有効ではないかと思われる。

▼Y先生 食べられないくなったらどうするか?その責任はだれがとるのか?そしていつ、誰が、どうやって摂食・嚥下障害に携わるのか?患者さんの置かれていた環境は?(病院、施設、在宅など)いろいろな条件が混沌としているのが現状である。また、病名が分かりにくかったり、担当領域の職種が明確でないことが連携の取りにくい原因として考えられる。歯科がコンシエルジュとなりえるのだろうか?

▼M先生 近年言語聴覚士学会でも摂食・嚥下関連の演題が増えてきている。STとしてのアプローチも急性期、回復期、維持期と予後の経過に従って行われている。そこで、各日時間の縫い目のない

いるが、口腔内アセスメントにも取り組んでいる。現時点では時間不足などの理由からアセスメント不足であったり、特に「入院中にはできるが、家でできないことを行う意味があるのか」と言う事を問題視している。アセスメントの充実、患者さんの教育、専門職(歯科衛生士)を取り込んだ口腔ケアチームの発足が望まれる。

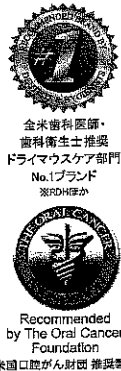
▼S先生 嚥下障害は呼吸障害を伴っているという事を頭の中にイ

▼H先生 摂食・嚥下障害看護認定看護師は全国3か所の施設で認定講習が行われており、現在全国で308名。埼玉県においては8人の看護師が従事している。実践・指導・相談を主な仕事としている。現在はがんセンター勤務のため「口腔清掃」が主にはなっているが、口腔内アセスメントにも

世界約50カ国で愛用されているEBMに基づいた口腔ケア

口腔乾燥にはbiotène®

- + だ液にも含まれる天然酵素
ラクトペルオキシダーゼ
グルコースオキシダーゼ
リゾチーム
- + ラクトフェリン
- + 保湿・潤滑成分
- + キシリトール



唾液のチカラで健康と笑顔を

T&K ティーアンドケー株式会社 〇フリーダイヤル 0120-555-350
東京都中央区日本橋堀留町1-5-7 TEL: 03-5640-0233 FAX: 03-5640-0232
URL: www.biotene-tk.co.jp E-Mail: info@biotene-tk.co.jp

ンプットしておかなくてはならない。患者さんがご家族の下にお帰りいただくことを考えた上でのリハビリではなくては意味がない。リハの目的は不利な条件の排除である。「3F症候群」を参考に無理のないメニューを無理なく行っていくことが大切だと思う。

▼O先生 各先生方は、職域の連携を含めて現在の状況を構築するまでにおいて御苦労された点があれば、お話しただきたい。

▼N先生 連携自体をご存じない方がおられて、連携を広めていくに当たりキーパソン(粘着剤)を見つけていることである。また、その方への積極的なアプローチ行い自分のしていることをご理解いただくこと。

▼M先生 患者さんにさせていただけることについて、共通の意識を持った職種の方に歩み寄っていくこと。

▼H先生 同じ職場内で成功例を共有すること。

▼S先生 一番苦労するのはSTだと思われるので、彼らの矢面にたつてモチベーションの維持に努めること。また病院内で圧倒的なマンパワーを持つ看護さんのご理解を得ること。

▼O先生 この領域の好きな人々の集まりなのになぜ連携しにくいのであろうか。それには、言語の統一性がないことが考えられるのではないかと。

▼N先生 コミュニケーションツールを作ることが大切では。

▼O先生 それにはカンファレンスが必要だと思われるが、現状では少ないように見受けられるが如何なものか。

▼M先生 Drによって方針が異なることがあり、カンファレンスで協議したいところだが、当院では現在は嚥下カンファレンスは行っていない。

▼H先生 患者さんの状況によつては声掛けにより開催されることもある。

▼S先生 造影検査をする曜日に合わせて行っている。

▼O先生 もっと小規模で、例えば2〜3人でのカンファレンスもありではないだろうか。

▼N先生 カンファレンスの開催または介入に声をかけていただく事が大切。そのため、飲みニケーションも有効である。

▼S先生 個別に他科先生に声をかけ具体的に話し合ってしまうのも良いかもしれない。

▼M先生 口腔ケアに関して

看護師は温度差があるように見受けられるので、それに関しては衛生士との連携が望ましいのでは。

▼O先生 いろいろな職種の方が口腔ケアを行うわけであるが、職種によってアセスメントも異なってくるようであれば、"すみわけ"のようなことが生じてくるのでは。

▼N先生 口腔内の清掃を徹底的に行うのであればそれは歯科衛生士がすべきで、もし他職種の方が難しい様であれば、ご依頼いただくのがよろしいと思われる。咽頭から上の清掃は歯科衛生士という"すみわけ"。

▼M先生 口腔ケアを共有することは気付きの範囲を広げることにつながる。そこで共有する者同士がさらに自分の専門性を深く追究することも"すみわけ"。

▼H先生 バッティングというより共有することにより、看護師が継続的に口腔ケアを行っていくにあたってのアドバイスも得られるので、それが連携に繋がる。

▼O先生 摂食と嚥下との間の意味を考え、本日のように嚥下に対しての勉強の幅を広げて摂食にも取り組んでいくというような方向。興味を持った者同士が

うまくコミュニケーションをとり、連携を進めて行かれることを期待する。最後に4人のパネラーより、"摂食・嚥下に関する連携をうまくすすめる"と言う事に対して一言ずつ。

▼N先生 食べることに生かせることです。

▼M先生 つながりを大切にする事です。

▼H先生 摂食・嚥下障害看護認定看護師を志す気持ちのある方よろしく願います。

▼S先生 共通言語とコミュニケーションツールの必要性です。

(大渡廣信・白根雅之記)

SUNSTAR

疾患治療に伴う口腔トラブルをもった患者様のお口のケアのために。

バター口腔ケアシリーズ
Specialty Goods



BUTLER

1923年以來、世界のアンクルプロフェッショナルに愛用され、今なお進化しつづけるブランド— BUTLER (バター)。

商品のお問い合わせ **072-682-4733**
<http://jp.sunstar.com>

サンスター株式会社 〒603-1195 大阪府大阪市東淀川区3番14

※口腔ケアの専門知識を有する認定看護師が監修しています。
©2012年 株式会社サンスター

ISBN 978-4-85500-371-4
CODEN WJ324E
定価3,700円
本体 3,200円
送料 500円
送料別送料。上記送料は税別です。

「生きることに力を与えること 上巻」
現場で活用できる食支援ケア 価格6,800円(税別)
— 食生活指導員、栄養士、嚥下障害者への対応 —
(上巻：基礎・基礎知識 49分)

■DVD全巻のあらい
認知症の上巻、下巻、嚥下障害者への対応、嚥下障害者の食生活指導員への対応、認知症の下巻、嚥下障害者への対応、嚥下障害者の食生活指導員への対応、嚥下障害者の食生活指導員への対応。

■内容
本編：上巻(認知症) 基礎知識と実践
○認知症の基礎知識
○認知症の食生活指導員への対応
○認知症の嚥下障害者への対応
○認知症の嚥下障害者への対応
○認知症の嚥下障害者への対応
○認知症の嚥下障害者への対応

■講師：現場での実践方法
○大渡廣信(認知症) 基礎知識と実践
○白根雅之(嚥下障害者への対応) 基礎知識と実践
○大渡廣信(嚥下障害者への対応) 基礎知識と実践
○白根雅之(認知症) 基礎知識と実践
○大渡廣信(嚥下障害者への対応) 基礎知識と実践
○白根雅之(認知症) 基礎知識と実践

制作：監修
発行：監修
印刷：監修
発行：監修
印刷：監修
発行：監修
印刷：監修

発行：(株)全国在宅歯科医療・口腔ケア連絡会
HD Culture Dental Care

発売元：三興書店 東京都中央区銀座1-9-1 電話：03-5561-1111

を達成するために以下のとおり事業を行います。

1. 講演会・症例検討会の開催

(1) 第15回 講演会

日時：平成24年6月17日(日) 13時～16時

場所：彩の国すこやかプラザ

講師：新潟リハビリテーション大学大学院・リハビリテーション研究科 倉智雅子

演題：摂食・嚥下障害における職種間の連携—STの立場から—

パネルディスカッション

司会：医療法人尚寿会大生病院耳鼻咽喉科長
埼玉県摂食・嚥下研究会理事 大前由紀雄

(2) 第16回 講演会

日時：平成24年10月14日(日) 13時～16時

場所：彩の国すこやかプラザ

①講師：医療法人尚寿会大生病院耳鼻咽喉科長 埼玉県摂食・嚥下研究会理事 大前由紀雄

②講師：千葉健愛会「あおぞら診療所」歯科衛生士 山口朱見

(3) 第17回 講演会

日時：平成25年2月17日(日) 13時～16時

場所：彩の国すこやかプラザ

講師：選定中

2. 摂食・嚥下研究会だより発行、ホームページの作成・更新。

①埼玉県摂食・嚥下研究会だよりを発行(年2回)

②ホームページの更新 (<http://www.ssek.net/>)

3. 摂食・嚥下研究会メーリングリストの作成

4. その他

(1) 必要に応じて作業委員会、摂食・嚥下だより編集委員会を開催する。

◆第5号議案 平成24年度予算の承認に関する件

【提案理由】平成24年度予算の承認について、会則第12条第2号の規定に基づき提案いたします。

平成24年度摂食・嚥下研究会収支予算書

(収入の部)

| 項 | 本年度予算額 | 前年度予算額 | 差異 |
|---------|-----------|-----------|----------|
| 入会金収入 | 30,000 | 40,000 | △10,000 |
| 会費収入 | 1,410,000 | 1,380,000 | 30,000 |
| 事業収入 | 840,000 | 880,000 | △40,000 |
| 寄付金収入 | 0 | 0 | 0 |
| 雑収入 | 0 | 300 | △300 |
| 当年度収入合計 | 2,280,000 | 2,300,300 | △20,300 |
| 繰越金 | 576,448 | 1,171,453 | △595,005 |
| 収入合計 | 2,856,448 | 3,471,753 | △615,305 |

(支出の部)

| 項 | 本年度予算額 | 前年度予算額 | 差異 |
|-----------|-------------|-------------|------------|
| 事業費 | 2,756,448 | 3,371,753 | △615,305 |
| 1.理事会・総会費 | (312,400) | (311,600) | (800) |
| 2.講演会費 | (1,725,000) | (2,180,000) | (△455,000) |
| 3.広報費 | 719,048 | (880,153) | (△161,105) |
| 予備費 | 100,000 | 100,000 | 0 |
| 当年度支出合計 | 2,856,448 | 3,471,753 | △615,305 |

埼玉県摂食・嚥下研究会役員名簿

(平成24年6月現在)

| 役職 | 氏名 | 役職 |
|---------------|-------|--|
| 会長 | 金井 忠男 | 埼玉県医師会長 |
| 副会長 | 島田 篤 | 埼玉県歯科医師会長 |
| 副会長 | 三浦 宜彦 | 埼玉県立大学長 |
| 副会長 | 内山 宣世 | 埼玉県薬剤師会長 |
| 専務理事 | 大渡 廣信 | 埼玉県歯科医師会会員 |
| 理事 (総務・会計) | 深井 稔博 | 埼玉県歯科医師会理事 |
| 理事 (広報) | 三木 昭代 | 埼玉県歯科医師会地域保健部副部長 |
| 理事 | 湯澤 俊 | 大宮医師会長・埼玉県医師会介護保険・在宅医療等推進委員会委員長 |
| 理事 | 小川 郁男 | 埼玉県老人保健施設協会会長 埼玉県医師会介護保険・在宅医療等推進委員会副委員長 埼玉県耳鼻咽喉科医会理事 |
| 理事 | 嶋津 裕 | 埼玉県内科医会副会長 |
| 理事 | 棚橋 紀夫 | 埼玉医科大学神経内科教授 |
| 理事 | 安井 利一 | 明海大学学長 |
| 理事 | 清水 良昭 | 明海大学歯学部社会健康科学講座障害者歯科准教授 |
| 理事 | 鯉淵 肇 | 埼玉県薬剤師会副会長 |
| 理事 | 膳亀 昭三 | 埼玉県薬剤師会常務理事 |
| 理事 | 高久 悟 | 埼玉県立大学健康開発科教授 |
| 理事 | 向田 良子 | 埼玉県看護協会会長 |
| 理事 | 中島 悦子 | 埼玉県訪問看護ステーション連絡協議会長 |
| 理事 | 丸山 恵子 | 埼玉県歯科衛生士会長 |
| 理事 | 千葉 道子 | 埼玉県介護支援専門員協会理事長 |
| 理事 | 清水 充子 | 埼玉県総合リハビリテーションセンター言語聴覚科長 |
| 理事 | 内田 淳 | 社会福祉事業団嵐山郷歯科診療担当医長 |
| 理事 | 奥村 元彦 | 埼玉県歯科医師会地域保健部副部長 |
| 理事 | 藤野 悦男 | 埼玉県歯科医師会地域保健部副部長 |
| 理事 | 中里 義博 | 埼玉県歯科医師会会員 |
| 理事 | 大前由紀雄 | 埼玉県耳鼻咽喉科医会会員 大生病院 耳鼻咽喉科長 |
| 理事 | 松本 吉郎 | 埼玉県医師会常任理事 |
| 理事 | 平野 孝則 | 埼玉県栄養士会長 |
| 理事 | 望月 久 | 埼玉県理学療法士会副会長 |
| 理事 | 大橋 幸子 | 埼玉県作業療法士会総務部長 |
| 監事 | 丸木 雄一 | 埼玉県医師会理事、埼玉県医師会介護保険・在宅医療等推進委員会副委員長 |
| 監事 | 岩上 榮吉 | 埼玉県歯科医師会専務理事 |

平成24年度 埼玉県摂食・嚥下研究会 第8回 総会報告

◆第1号議案 役員の選任に関する件

役員の選任に関する件の提案理由の説明が行われ、奥村議長より諮ったところ、挙手多数によって以下の4名を承認した。

- 副会長 内山 宣世 (埼玉県薬剤師会)
- 理事 平野 孝則 (埼玉県栄養士会)
- 理事 望月 久 (埼玉県理学療法士会)
- 理事 大橋 幸子 (埼玉県作業療法士会)

◆第2号議案 平成23年度事業の承認に関する件

1. 会員数：正会員 278名
賛助会員 31団体 (59口)
2. 理事会及び総会
平成23年7月10日(日) 彩の国すこやかプラザ
3. 講演会及び症例検討会

(1) 第12回 講演会

日時：平成23年5月15日(日) 13時～16時
場所：埼玉建産連研修センター3階大ホール
参加者：201名(正会員32名・賛助会員37名・非会員132名)

- ①講師：社会福祉法人毛呂病院埼玉精神神経センター・センター長、埼玉県医師会理事、埼玉県摂食・嚥下研究会監事 丸木雄一
演題：神経難病における球麻痺・呼吸障害に関して
- ②講師：静岡県立がんセンターリハビリテーション科副主任 言語聴覚士 神田 亨
演題：がんによる嚥下障害の原因と対

(2) 第13回 講演会

日時：平成23年7月10日(日) 13時～16時
場所：彩の国すこやかプラザ2階セミナーホール
参加者：126名(正会員70名・賛助会員7名・非会員49名)

- ①講師：医療法人財団アカシア会 クリニックふれあい早稲田院長 大場敏明
演題：認知症患者を主人公とした食生活の自立支援
- ②講師：国立がん研究センター中央病院・摂食嚥下障害看護認定看護師 鈴木恭子
演題：がん患者における嚥下障害の状況とその対応方法

(3) 第7回 症例検討会

日時：平成23年12月11日(日) 13時～16時
場所：彩の国すこやかプラザ2階セミナーホール
参加者：121名(正会員47名・非会員74名)

- ①講師：財団法人精神医学研究所附属東京武蔵野病院歯科口腔外科部長 斎藤 徹
演題：精神疾患患者の摂食・嚥下障害への対応
- ②講師：財団法人精神医学研究所附属東京武蔵野病院栄養科 小池早苗
演題：管理栄養士の立場から
- ③講師：財団法人精神医学研究所附属東京武蔵野病院 作業療法科 大川大地
演題：作業療法士の立場から

(4) 第14回 講演会

日時：平成24年2月19日(日) 13時～16時
場所：彩の国すこやかプラザ2階セミナーホール
参加者：181名(正会員60名・賛助会員37名・非会員84名)

- ①講師 医療法人尚寿会大生病院歯科口腔外科部長 阪口英夫
演題 口腔ケアの基礎知識
- ②講師 医療法人尚寿会大生病院歯科衛生士 馬場広美
演題 口腔ケアを見直そう～慢性期患者の口腔ケアの手技・手法～
- ③講師 七沢リハビリテーション病院脳血管センター理学療法士 小泉千秋
演題 呼吸リハビリテーションについて

4. その他

- (1) 監査：平成23年5月15日(木) 埼玉建産研修センター
- (2) 作業委員会
平成23年4月7日(木) 彩の国すこやかプラザ
平成23年10月13日(木) 彩の国すこやかプラザ
平成24年1月12日(木) 彩の国すこやかプラザ
5. 摂食・嚥下研究会だより、ホームページの作成・更新
①埼玉県摂食・嚥下研究会だよりを発行(年1回)
②ホームページの作成・更新 (<http://www.ssek.net/>)

◆第3号議案 平成23年度決算の承認に関する件

【提案理由】平成23年度決算の承認に関する件について、会則第12条第2号の規定に基づき提案いたします。

平成23年度摂食・嚥下研究会収支決算書

(収入の部)

| 項 | 本年度予算額 | 本年度決算額 | 差異 |
|---------|-----------|-----------|----------|
| 入会金収入 | 40,000 | 40,000 | 0 |
| 会費収入 | 1,380,000 | 1,430,000 | △ 50,000 |
| 事業収入 | 880,000 | 696,000 | 184,000 |
| 寄付金収入 | 0 | 0 | 0 |
| 雑収入 | 300 | 36,445 | △36,145 |
| 当年度収入合計 | 2,300,000 | 2,202,445 | 97,855 |
| 繰越金 | 1,171,453 | 1,171,453 | 0 |
| 収入合計 | 3,471,753 | 3,373,898 | 97,855 |

(支出の部)

| 項 | 本年度予算額 | 本年度決算額 | 差異 |
|-----------|-------------|-------------|-----------|
| 事業費 | 3,371,753 | 2,797,450 | 574,303 |
| 1.理事会・総会費 | (311,600) | (267,970) | (43,630) |
| 2.講演会費 | (2,180,000) | (2,141,338) | (38,662) |
| 3.広報費 | (880,153) | (388,142) | (492,011) |
| 予備費 | 100,000 | 0 | 100,000 |
| 当年度支出合計 | 3,471,753 | 2,797,450 | 674,303 |
| 次期繰越収支差額 | | 576,448 | |

◆第4号議案 平成24年度事業計画の承認に関する件

【提案理由】平成24年度事業計画の承認に関する件について、会則第12条第2号の規定に基づき提案いたします。

本格的な高齢社会を迎え、高齢者が最期まで元気で、健康な生活を送ることが切実な課題となっています。「食べる」ことに障害を持つ高齢者や障害児(者)が大勢いるにもかかわらず、その取組みが遅れています。埼玉県摂食・嚥下研究会は、摂食・嚥下障害の諸問題への対応や啓発指導、リハビリテーションなど目的

埼玉県摂食・嚥下研究会

第16回 講演会

日時：平成24年 **10月14日** (日) 13:00~16:00

場所：彩の国すこやかプラザ2階セミナーホール

講演 1

演題：「**医科歯科連携から訪問口腔ケアへ**」

講師：あおぞら診療所上本郷 歯科衛生士 **山口 朱見** 先生

講演 2

演題：「**嚥下障害を抱える症例への対応**
—口腔から気管の吸引と気管切開の管理を知ろう—」

講師：尚寿会 大生病院 耳鼻咽喉科科長
埼玉県摂食・嚥下研究会理事 **大前由紀雄** 先生

■定員：250名

※参加者多数の場合はご連絡いたします。

※改めて参加証はお送りいたしません。

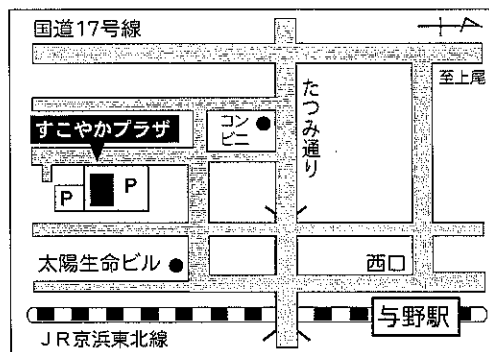
■参加費：会 員 / 無 料

非会員 / 2,000円 (資料作成代等)

■申込締切日：10月4日 (木)

主 催：埼玉県摂食・嚥下研究会

問合せ：埼玉県歯科医師会事務局 TEL 048-829-2323



参加申込書 埼玉県摂食・嚥下研究会 (会員・非会員) ※どちらかに○を付けてください

| | | | |
|--------------|-----|-----|--|
| フリガナ | | 職 種 | |
| 氏 名 | | 電 話 | |
| 住 所 (勤務先) | 〒 - | FAX | |

申込書 FAX先 **048-829-2376**